



令和5年6月30日(金)
練馬区立開進第四小学校
校長 関川 健

開四小だより 7月号

当たり前になるまでには

校長 関川 健

子供たちはほぼ毎日タブレットPCを持ち運んでいるかと思います。必要ない物はランドセルに入れないことと学校に置いておく物を明確にすることで、通学の負担をできるだけ減らす工夫をしています。ほかにも水筒、体育着、絵の具、習字道具、上履き袋など、持ち運ばなければならない物がたくさんあり、その健気な姿が愛おしいです。保護者の皆様には御理解、御協力をいただき、ありがとうございます。

学校では積極的にタブレットの利活用を進めていく方針ですが、全ての教員が同じようには指導できないのが実情です。どんな場面でどんな使い方をしたか、有効だったかどうかなどの情報を共有しながら様々な教育活動の中で試行錯誤しながら活用しています。

本校でこれまでに私が見てきた授業の中での活用例を紹介します。ある程度上の学年ですが、個人の考え(意見)を提出BOXに送って全員で共有する使い方は多く行われています。挙手⇒指名⇒発表という話し合いをするよりはかなり効率が良く、時間短縮のほか発表が得意でない児童も意見が出しやすくなるなどのメリットがあります。理科の各班の実験結果の集約などでよく活用し、互いのデータの比較や検証をしています。フォームは授業の振り返りを入力するほか各学年で様々な活用しています。カメラ機能は児童が主体性を発揮するのに大いに役立ちます。生活科や理科の観察学習では植物の生長の記録などを撮影して手描きの記録とうまくミックスしています。動画機能を使い体育で自分自身の動きを確認したり、総合などの発表の練習で活用したりしていました。図工では、毎回作品を撮影して制作の進捗を記録していました。インターネットを使って調べる活動は社会、理科、総合などでよく行っています。イラスト・工作クラブではネット検索して見つけたイラストをお手本にしていました。



全員の意見を共有



昆虫のからだのつくりは...



イラストのお手本



ゲーム作り

朝、登校してから学活等が始まるまでの自由な時間に自主的にタブレットを使っている児童がたくさんいます。今朝教室を回って行くと、2年生が「やさいずかんをつくろう」の作業を、6年生が英語の授業で出すクイズの準備を、5年生がプログラミングでゲーム作りやタイピング練習などを行っていました。タブレットの利活用が当たり前になるまでにはまだまだ時間がかかりますが、着実に前に進んでいることは確かだと思います。

「携帯電話等の持込に関するルール」を学校HPの配布文書「お知らせ」に掲載しています。個別の事情を校長との面談で伺った上、同意書の提出をもって持込を承認しますので、よろしくお願いいたします。